

成功する卒論

失敗する卒論

九州大学 文学部
社会学・地域福祉社会学研究室
2012年版

卒論の採点基準

- 1. 構成力 **25点**
 - 論理立てた構成、先行研究のレビュー、仮説、リサーチ、実証や検証、分析、考察
- 2. リサーチ力 **25点**
 - リサーチや調査の方法や質・量
- 3. 分析力 **25点**
 - 社会学的な発見と分析、考察や示唆
- 4. 表現力 (卒論にふさわしい表現力) **25点**
 - オリジナリティ、卒論への取り組みや意欲でも、加点

卒論

成功の方程式は、ない



卒論

失敗しやすいパターンは、ある



失敗のパターン 1

- 広すぎる問題関心(拡散)
 - あれもこれも...でもどれひとつ深まらない...
- 漠然とした一般的なテーマ
 - 一般論に始まり、一般論に終わる.....
- 何が問題なのか、「問いかけ」がない
 - 問う、問いかけ、リサーチ・クエスチョンがない...

失敗のパターン 2

- 「先行研究」を踏まえていない
 - 先行研究を調べない
 - 先例や先行研究を知らないと、非効率、いきあたりばったりになる
- 「先行研究」とは何か、分からない・・・
 - インターネットでキーワード検索したら出てきた本や論文を「先行研究」と思ってしまう・・・
- 「先行研究のレビュー」になっていない
 - 「レビュー」とは無批判に受容することではない
 - 「批判的受容」あるいは「批判的乗り越え」である

先行研究って何ですか？

- 見知らぬ町を旅するときの「地図」であり「ガイドブック」
 - 地図を持たないまま町を歩き回っても道に迷うだけ
 - 信頼できる「ガイドブック」がないと、どこを見るべきか分からない
 - 「ガイドブック」にも善し悪しがあって、それを見分ける力がないと「情報に振り回される」
 - インターネットに出てきた情報を無批判に信頼することは危険

失敗のパターン 3

- 「問いかける力」がない
 - リサーチやデータを集めるだけでなく「問う」こと
- 「批判力」がない
 - 現実のデータやリサーチを「批判する力」(否定したり拒否することではない)
- 「深める力」がない
 - 現実の表面だけでなく、その奥に何か深めまるものを発見していく

「問い」がないと 「社会科見学」になってしまう

- 「社会」を見学しました。「社会」についてお勉強しました。「社会」がこうなっていることが分かりました・・・で終わる



失敗のパターン 4

- 調査やリサーチの「こだわり」
- 自分が、苦勞して集めた事例やデータがない
- すべて、伝聞、聞き書き、引用・・・



借り物ばかりだと.....

- 「自分なりのこだわり」やオリジナリティが出にくい。くいついて深めることがない。
- どこか「ひとつと」のような一般論一般論になりがち



失敗のパターン5

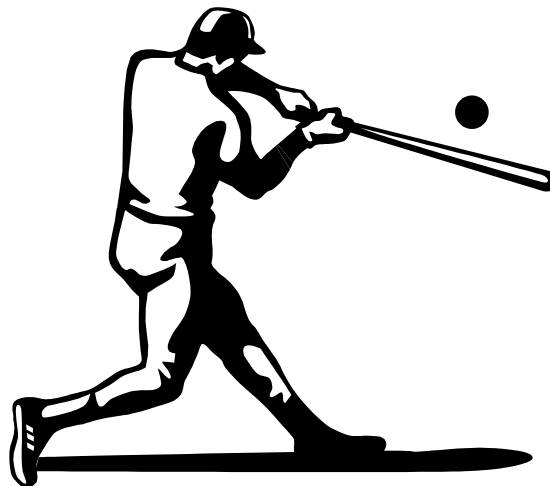
理論や概念に振り回される

- **自分でなく、「コトバ」が勝手に考えてしまう**
 - 理論や概念、かっこいい流行語などのコトバには足をすくわれやすい



卒論の課題

- オリジナルなリサーチをする
- 先行研究をしっかりと踏まえる
- 問いを深める(問い、批判力、深める分析)



かっこいいコトバに要注意

- **考えていないのに、考えた気になってしまう**
 - 自分で、自分のコトバをつむぎだしたい
 - オリジナルな言葉をつくるくらいの気持ちで



レポートと論文の違いとは

- レポートは「調べたことを書く」
 - 内容は、取材（調査）結果、伝聞や引用など
 - つまり、調べるれば調べるほど、レポートはすらすらたくさん書ける
 - しかし、オリジナルではない
 - 論文とは認められません
 - 行政データをただひたすら書き写した卒論が出てきたときには頭をかかえました.....

ところが、論文は・・・

- オリジナルな材料から、何かを「発見」し、それを分析・考察・応用すること。
 - 材料づくりだけでも重要な貢献になる（社会調査など）
 - そこから分析して、発見していくことが、論文の（そして調査や研究の）醍醐味
 - 予想と違った結果がでても「失敗」ではない
 - 結果が思うようにでなくても「失敗」ではない